

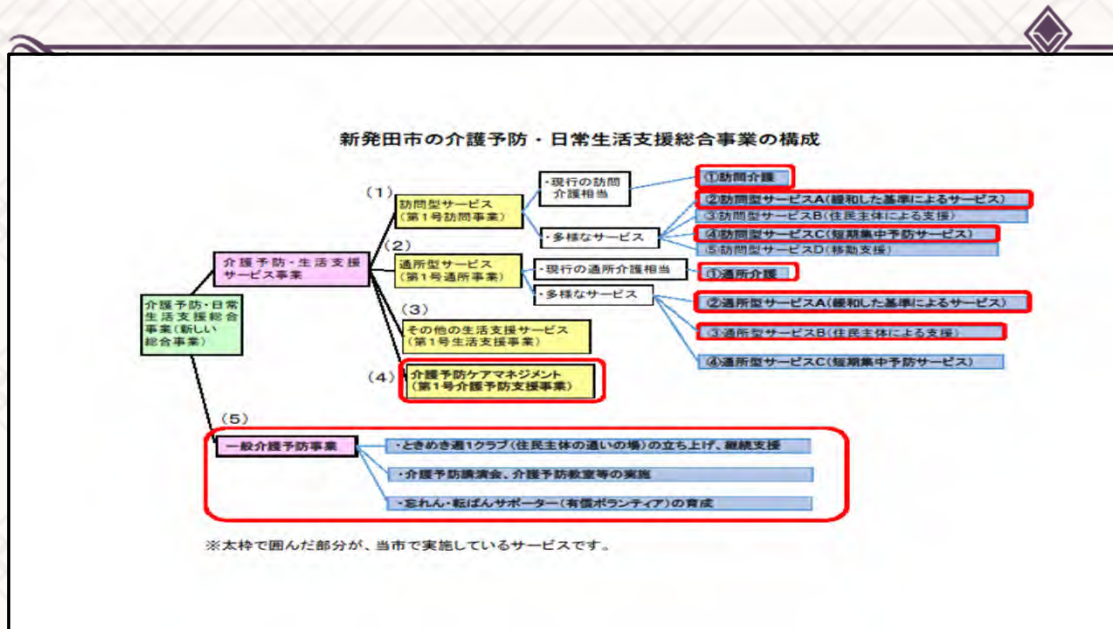
地域づくり加速化事業の支援を受けて

令和6年1月23日（火）
新潟県新発田市高齢福祉課地域包括ケア推進係
星野 哲也



住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた

短期集中予防事業について



当市の通所サービスC事業は、運動、栄養、口腔に加え、複合型プログラムをモデル事業を経て令和3年度から実施しています。
(現在4事業所で実施)

○通所サービスCの推移(複合型プログラムを含む)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
実人数	40	101	100	87	145	186
延べ人数	378	882	961	745	1,241	1,552

新発田市の介護予防・フレイル対策

《健康推進課の主なフレイル予防に関する事業》

フレイルに気づくきっかけ

アクティブシニア健診

地区組織が主体となったきっかけづくりの場

フレイル予防教室

《高齡福祉課の主な介護予防に関する事業》

フレイルからの脱却・活動量の拡大で社会参加につなげる

短期集中予防サービス
・サービスC事業（通所・訪問）

*健康寿命のびのび教室
（複合型プログラム）

社会参加・地域で元気に暮らせる

- ・ときめき週1クラブ
- ・ボランティア育成・参加
- ・老人クラブ
- ・ふれあいルーム
- ・eスポーツ体験事業等

- ・介護予防講演会
- ・介護予防教室
- ・生涯元気講座

市民全体の健康寿命を延ばす意識を醸成



ときめき週1クラブで
体力の維持

生活支援体制整備事業について

平成28年度から事業を開始し、第1層SCを配置。第1層協議体は、地域ケア推進会議の部会（生活支援体制整備部会）に位置付けて実施しています。

第2層協議体の区域を地域福祉活動計画に合わせて17地区の設置を目指しています。

しかし、現在のところ設置は3地区のみ（うち1地区は休止中）



地域づくり加速化事業に参加した経緯

短期集中予防事業、生活支援体制整備事業の課題解決のために参加

○短期集中予防事業（通所型サービスC）

対象者の把握、利用者の拡大が進まない

介護サービスを使いたい利用者への説得が困難

卒業後のつなぎ先が少なく、重度化してしまう

○生活支援体制整備事業

2層協議体の設置が進まない（17地区中3地区）

住民主体のサービスが未構築

→支援が進むごとに、当市の課題への気づき、目標にも変化が・・・

第1回目支援

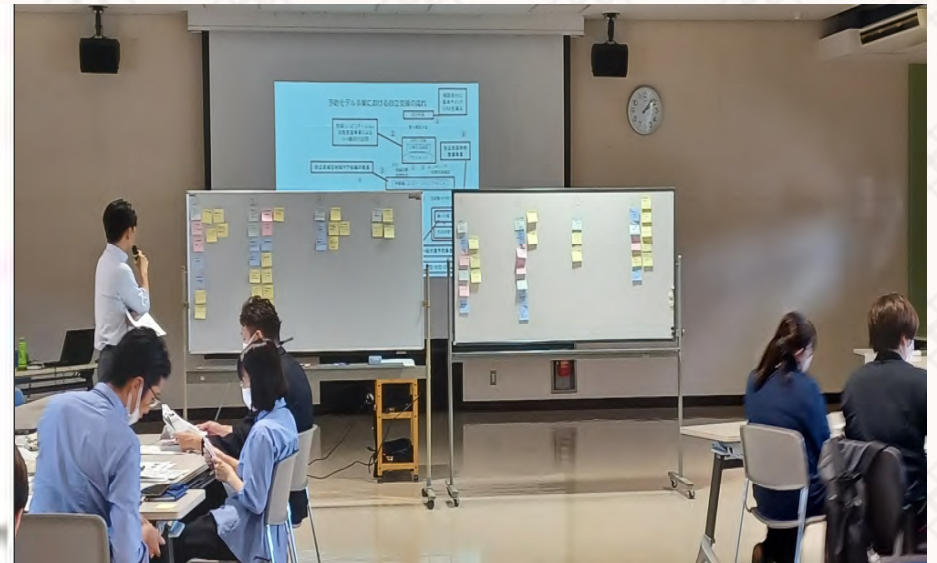
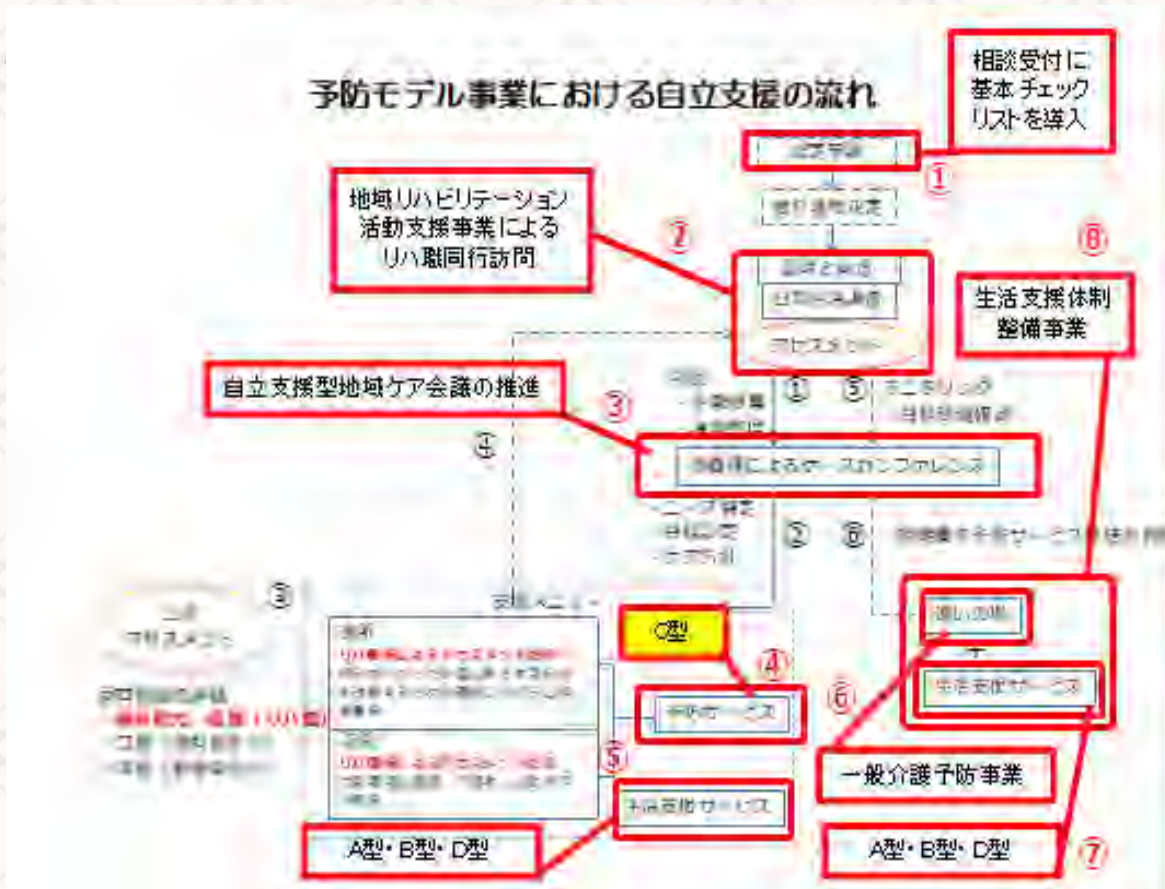
○参加者

高齢福祉課、健康推進課、地域包括支援センター、社会福祉協議会

○内容

- ・地域づくり加速化事業について
- ・市の現状と課題
- ・意見交換
- ・服部AD、鶴山AD講義
- ・ディスカッション
 - 「サービスCの卒業後の課題」（短期集中予防）
 - 「地域（高齢者）のありたい姿とは」

服部ADグループワーク



入口から出口までの各段階の現状や課題について、意見を出してもらいました。

鶴山ADグループワーク



- ①地域にある活動や地域の強み
- ②「目指す地域像」のために足りない活動
- ③どんな取組が必要かをテーマに意見を出し合いました。

鶴山ADグループワーク①

A

キーワード 個性が尊重される!
強制されない
好きなことを続けられる
多様性のある地域

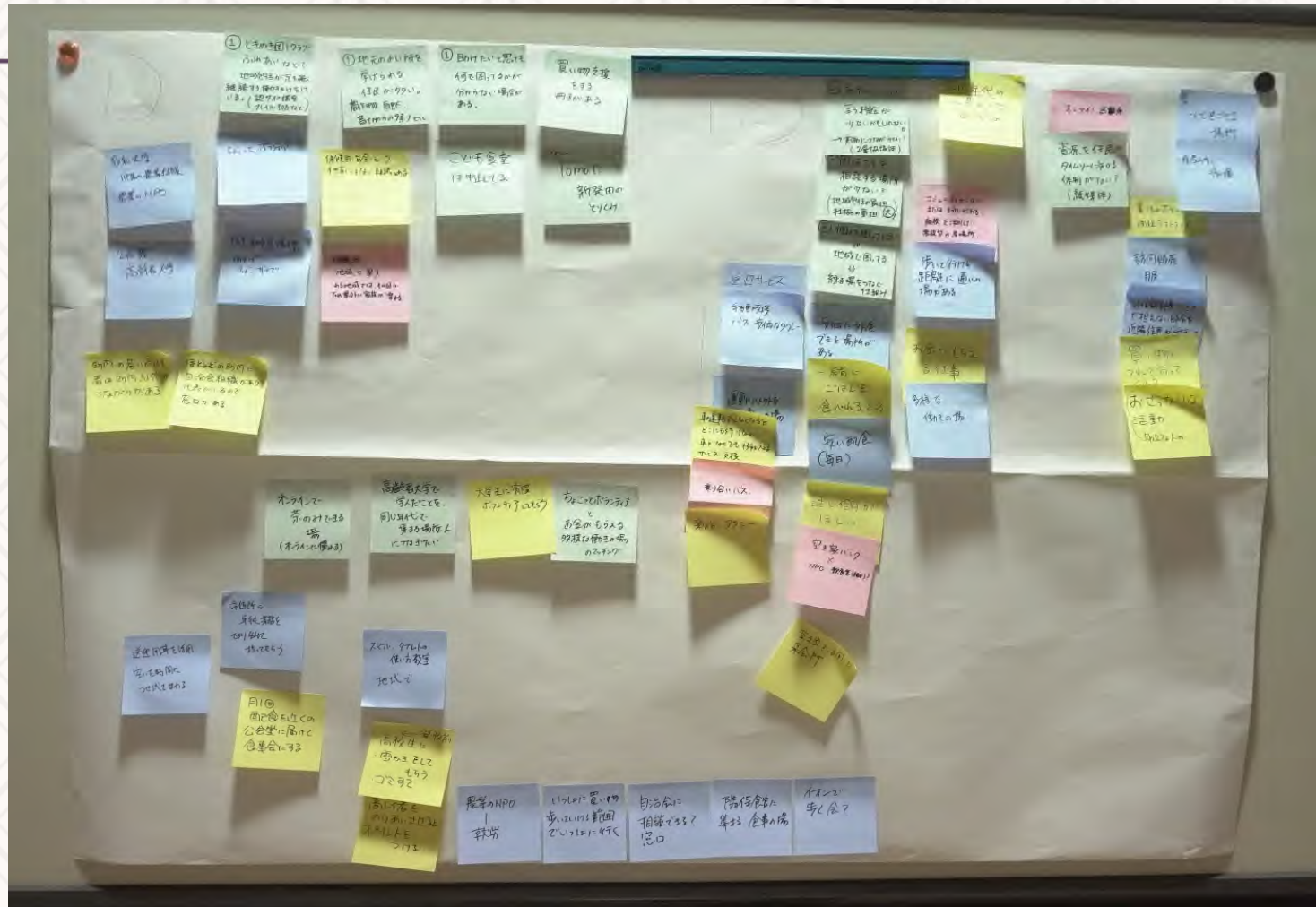
A

見栄、残りの文化
本当に困らないと助けてと
言えない...

課題 ①困っている人を知らない
②フレイルや認知症、介護サービスの正しい使い方を知らない
③包括支援センターが忙しい

打ち手 ①効果的な普及啓発を検討 (事例ベースなど)
② "
③ 第2層SCをとにかく置く! (包括に配置もありえる...?)

鶴山ADグループワーク②



第1回目支援のふりかえり

- ・ 第1層協議体が協議の場となっていない
（ここが大きな課題だった！）
 - ・ 市の戦略が不足
 - ・ 住民の声を聞くことの重要性
 - ・ C事業と生活支援体制事業の連携
- 場につなげるのではなく、人につなぐ
その人の望む暮らしに近づける

第2回目支援までに取り組んだこと

- ・ 健康推進課との新年度事業打ち合わせ
→健康分野との連携、役割分担
- ・ 複合Cカンファレンスへ第1層SC、担当者の参加
→事業参加者のニーズを深く知る。
- ・ 第1層協議体、第2層協議体の見直しをスタート

第2回目支援

午前の部 - 短期集中予防事業

○参加者-高齡福祉課、健康推進課、地域包括支援センター

○内 容

- ・服部AD講義「短期集中予防サービスと動機付け面談」
- ・ディスカッション（事業の棚卸、効果の確認）

午後の部 - 生活支援体制整備事業

○参加者-高齡福祉課、アクティブ交流センター、健康推進課、
地域包括支援センター、新発田市社会福祉協議会

○内 容

- ・新発田市における庁内・地域連携の重要性について（高齡福祉課）
- ・鶴山AD講義「地域共生社会の実現に向けて
住民主体の地域づくりを共に推進しよう」
- ・グループワーク

服部ADディスカッション

ポピュレーションアプローチの各事業について、事業効果の確認を行いました。



ポピュレーションアプローチについて

アクティブシニア健診
 目的: フレイルを知ってもらう (普及啓発)
 フレイル状態の人を把握 (ハイリスク把握)
 75才以上の人の 25% (4,000人) に提供
 25%のうち
 転倒 15%
 栄養 10.8%
 口腔 26.3%
 ⇒ 今年度からなので成果はまだ
 17地区にどうやって展開していく? 大変そう

フレイルという言葉
 知っている = 57.9%
 地域差がある
 why?
 地域のラジオ、TV、健康教育、保健師さんからのPR

低栄養改善
 1回目: 訪方向 (栄養指導) 20人/
 2回目: TELで確認 → 必要に応じて包括 (総合事業)へ

通いの場での健康教育 目的: 周知のみ
 年間 50ヶ所 (100回) 行っている!
 後期高齢者賛同票を西配布し周知

ときめき週1クラブ ... 体さうメイン通いの場 (80ヶ所)
 後期高齢者賛同票を全員に西配布
 ⇒ 10人/年把握している

医師ら梅園 民生委員 目的: 周知のみ
 ~ からつながってくださることも

未把握者への把握訪問
 200~300人/年
 訪方向して状況把握はできている
 フレイルに対する効果は...? (受診中断は足の問題など元気な人も)

感想 (令和5年11月24日(金) 土地区域づくり推進②)
 周知はしているが、ハイリスク者全員に提供できていない
 → “もう歳だからこまもん” - 自分フレイルだと思っていない
 - 必要性を感じない - よくなると思っていない
 説明の仕方? リハ員さんの方が上手にできそう (見えて) リハ員さんがかかっても言ってもらえるか... (見えて) リハ員さんがかかっても言ってもらえるか...
 課題: 対象者を見つける、対象者へのアプローチ (説明書配得) ~ リハ員さんどう把握する?
 費用対効果: 11月取の雇用コスト、将来の介護費用効果 (2人予防すると500万の予算が浮く!)
 事業の精査: どこをやるか?

鶴山ADグループワーク



- ①住民の力を引き出すため働きかけ、支援のために取り組んできたこと
- ②これから一緒に取り組んでいけることは何か
- ③そのために必要なことは

○取り組むこと
2層協議体とボランティアの
マッチング
公民館の高齢者向け講座での
フレイルや健康講座、
小中学校との連携。

○課題や展望
事業ごとには連携できるが、
全体として連携不足。地域に
似たような会議体や講座
事業や政策単位でなく、地域
を単位として活動できないか。

第2回目支援のふりかえり

- ・ 総合事業について、合意形成されないケースがよくある。改善をあきらめている人に対してどう説得すればよいか。
- ・ 連携の重要性は理解しているが、目指す姿が共有できていないのでは。調整役の不在。
- ・ 生活支援については、改めて庁内課等、関係機関の連携と事業の整理、各地域の状況の共有が大切
- ・ 事業ごとには連携できているが、全体としての連携は少し足りない。事業や政策ごとではなく、地域ごとにやったらいいのではないか

第3回目支援について（1）

◎短期集中予防事業

事業者向け研修会として実施

○動機付け面談について

○ディスカッション

- ・ハイリスク者への啓発
- ・要支援者が通所C事業につながらない理由

→事業の入口の改善を目指す

第3回目支援について（2）

◎生活支援体制整備事業

第1層協議体（生活支援体制整備部会）として実施

○講義による協議体の役割の確認

○市の課題、方向性の共有（講義、グループワーク）

→第1層協議体の在り方を見直し、
市の方向性を共有

来年度に向けて

○当市の介護保険事業計画の基本理念

「住み慣れた地域で生きがいをもって暮らし続ける
健康長寿のまち」

→具体的な目標に落とし込む

○通所Cの出口対策

→生活支援体制整備事業との連携強化

○第1層で共有した方向性、課題を地域と共有

→第2層SC、協議体の制度設計

最後に

地域づくり加速化事業を通して、市の方向性や課題を深く考える機会となりました。

市がどう考えるか、どうしたいかを常に尊重して進めていただいたと思います



ご清聴ありがとうございました